



神戸市立小磯記念美術館開館10周年 読売新聞大阪発刊50周年

# 小磯良平回顧展

—あふれる気品・ただよう情調—

K O I S O R Y O H E I

2002年10月5日(土)—12月1日(日)

開館時間／午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)＊会期中、一部展示替えがあります。

休館日／毎週月曜日(ただし10/14、11/4は発館)、10/15、11/5

入館料／当日：一般800(600)円 高大生550(400)円 小中生300(150)円

( )内は30名以上の団体料金 神戸市のすこやかカード持参の方は半額になります。

前売：一般700円 高大生450円 小中生200円

(神戸市内プレイガイドおよびチケットびあで発売)

主 催／神戸市立小磯記念美術館、読売新聞大阪本社、読売テレビ

神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5丁目7 TEL.078-857-5880

# 小磯良平回顧展

KOISO RYOHEI

卓越した女性像などで広く親しまれている洋画家・小磯良平(1903-88)は、国際港都・神戸に生まれ育ち、東京美術学校で藤島武二に学びました。そして、同校在学中の1926年に帝展で特選に輝くなど、早々と画才を発揮しています。1927年に小磯は、同校を首席で卒業し、その翌年から約2年間、フランスを中心に欧州で滞在します。西洋絵画の粋を吸収してからの帰国後、神戸を舞台に充実した制作の日々を送り、1936年には、純粋美術の確立を唱えて、仲間たちと新制作派協会(現 新制作協会)を結成しています。戦後は制作の傍ら、東京藝術大学の教授として、後進たちの指導にも尽力しました。1983年には文化勲章を受章し、神戸市の名誉市民となっています。小磯良平は1988年に惜しまれつつ他界しましたが、静謐で典雅なその作品は、多くの人々を魅了し続けています。

このたび、小磯芸術を顕彰する当前の間開10周年と、読売新聞大阪発刊50周年を記念し、「小磯良平回顧展」を企画いたしました。本展は、60年余の長きにわたって制作を続けた小磯良平の本格的な回顧展です。初期から晩年までの代表的な作品を一堂に展覧し、小磯芸術の魅力を広く紹介いたします。清楚な趣を持つ小磯良平の芸術世界をどうぞ堪能ください。



『僕の自像』 1927年 東京藝術大学蔵



『自像の他』 1926年 兵庫県立美術館蔵(1/4張で展示)



『神楽坂の踊り子達』 1938年 東京国立近代美術館蔵



『真昼』 1941年 兵庫県立美術館蔵(1/6枚で展示)



『働く人びと』 1950年



『ユートキを持つ婦人』 1980年



## 神戸市立小磯記念美術館

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中5丁目7 TEL:078-857-5880  
[http://www.city.kobe.jp/otofoto/057/ryoiso\\_museum/](http://www.city.kobe.jp/otofoto/057/ryoiso_museum/)

■交通  
 JR西宮駅 阪神梅田駅のせいのぞ快速列車ライナー  
 「アライオン(北口)駅」(徒歩約4分)、「東舞子から5分」下車。  
 ※5分徒歩まで、六甲アイランド(公園内)  
 ※公園の地下には有馬稲生墓(有料)があります。

- ◆講演会  
 10月27日(日)午後1時30分～4時 観覧無料  
 神戸ファッションアート9F コンベンションルーム1にて(定員200名)  
 「近代都市の画家・小磯良平」  
 講師 / 中岡徳博氏(兵庫県立美術館学芸部門マネージャー)  
 「小磯良平先生のこと」  
 講師 / 右坂春生氏(洋画家・新制作協会会員)  
 (事前に電話でお申込み下さい) 会場(財)神戸市体育協会
- ◆解説会 毎週土曜日午後2時より 出展学芸員によるスライド解説
- ◆子供のための美術講座 美術館大ホール 小磯良平大研究  
 10/18、10/28、11/2(いずれも午前10時～12時)定員各30名  
 小3～中3生対象  
 10/8までに往復はがきにて要申込(詳しくは当館にお問い合わせください)
- ◆ロビーコンサート 10月6日(日)午後2時～
- ◆次回展覧会のご案内 第8回小磯良平大賞展・収蔵作品展Ⅲ  
 2002年12月7日(土)～2003年2月9日(日)